

(3) むずかしい漢字もさりげなく

カードを使い物語風に

15×20センチメートルくらいの画用紙で“森・鳩・池・蟻・猟師・鉄砲戸と書いた六枚の漢字カードを見せながら、次のようなお話をします。

「ある所に森がありました。森って知っている？ 木がたくさん生えている所ね。」

「この森の中に、一羽の鳩が住んでいました。鳩ぽっぽ見たことある？」

「森の中には池がありました。池って知っている？ 川とどう違うかしら？」

「池のそばに蟻が住んでいました。蟻さんは働き者で、暑い夏の間食べ物たくさん集めて穴の中にしまっておきます。」

「夏の暑い日のことでした。蟻さんは働いてのどがかわきました。それで池のところへ行き、水を飲もうとして、池に落ちてしまいました。」

「それを見ていたのが鳩です。鳩は木の葉を一枚落としてやりました。蟻は木の葉に乗って助かりました。」

「次の日、森の中へ猟師がやって来ました。猟師って知っている？ 鉄砲を持っていて、鳥や獣を見つけると、ズドン！ と打って殺してしまう人なの。こわい人だねえ。その猟師が森の中へやって来ました。」

「猟師は鳩を見つけると、鉄砲でねらいました。鳩は気がつきません。危い！ その時、蟻が猟師に気がつきました。蟻は走って行き、

猟師の足にかみつきました。それで鳩も気がつき、逃げる事が出来ました。」

「蟻が池に落ちて危かった時、鳩が蟻を助けてやりました。鳩が猟師にねらわれて危かった時、蟻が鳩を助けました。」

「鳩と蟻は仲よしですね。仲よしのお蔭でどちらも助かりましたね。これでお話はおしまい。」

さて、これだけのお話をしてやり、終わったところで、漢字カードを一枚ずつ見せて、何というカードだったかを尋ねてみて下さい。たいてい、話の間に覚えてしまっていて、読めるはずですが、

読めない場合は、「これは……という字よ」とさらっと読んでやります。教えてやるんだという気持は無用です。六枚終わったところで、また初めから尋ねてみて下さい。初め読めなかったカードも、今度は読めるでしょう。三歳～五歳の子供もだったら、たいてい一度で、六枚の漢字カードを覚えて、正しく読み分けるはずですが。鳩も蟻も、小、中学校では学習しない、つまりむずかしい漢字です。その漢字を、子供は無造作に覚えてちゃんと読み分けるのです。

次の日、六枚のカードを一枚ずつ読ませてみて下さい。たいてい覚えていて、正しく読み分けるはずですが、読めなかったら、「 」と軽く読んでやって下さい。「忘れたの！」と責めるような態度は禁物です。これを一週間後、一月後、半年後にやってみて下さい。たいてい正しく読み分けられるはずですが、この実験をやってみれば、子供がどんなに漢字をよく覚えるかが判るはずですが、